

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AM338／文学講義 38 (Lectures on Literature 38)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカ文化2		
担当者名 (Instructor)	舌津 智之(ZETTSU TOMOYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EAL2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカにおける性の多様性に関する知識を深め、その審美的かつ政治的な諸相を分析する批評的な能力を養う。あわせて、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状や課題を理解する。

The aim of this course is to help students acquire a deep understanding of sexual diversity in the U.S. and a critical ability to analyze its aesthetic as well as political aspects. This course will also explore the present diversity of world cultures, state of communication between cultures, and issues faced by the multicultural world.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、アメリカにおけるポリアモリー(複数恋愛)の歴史を概観する。LGBTQの権利が法的にも認められつつある現代において、なおも——日本においては特に——理解が進んでいない、いわば最後の性的マイノリティともいえるのがポリアモリストである。アメリカではしかし、1990年代以降、ポリアモリーの考えが社会に浸透し、日本では「不倫」として批判される婚外の関係も、「オープン・マリッジ」(開かれた結婚)として容認ないしは肯定されうる土壌さえ整いつつある。互いの同意のもと、同時に複数の相手と持続的な関係性を構築するというポリアモリーの概念は、男女一対のモノガミー(とその後ろ盾となる資本主義)を規範とする社会に対し、いかなる抵抗の歴史を紡いできたのか。ポリアモリーという言葉が生まれたのは20世紀末のアメリカにおいてであるが、そのルーツは19世紀にさかのぼる。複数恋愛に関わる思想、宗教、文学、音楽、映画など、アメリカ文化のさまざまな位相を射程におさめつつ、今日的な性の多様性とはどうあるべきかを考えるための補助線を提供したい。

また、当授業を受講する学生には、立教大学の国際交流ラウンジやインターネット上のSNS・掲示板等を利用した双方向的な異文化理解を実践することが求められる。

This course provides a historical survey of polyamory and its cultural repercussions in the United States. Despite our increasingly positive understanding of LGBTQ rights, polyamory remains, as it were, the last frontier of sexual diversity. In the States, however, the idea of “extramarital affairs” could now be understood as “open marriages.” With this situation in mind, we will explore the ways in which polyamory has historically resisted the idea of monogamy (and capitalism behind it). Although the term polyamory was coined in 1990s America, its roots can be traced back to the nineteenth century. This course, then, aims to investigate diverse aspects of polyamorous culture, including philosophy, religion, literature, music, and movies.

Students in taking this course are also encouraged to use the Rikkyo University international exchange lounge, internet SNS and bulletin boards, and other interactive media to put their understanding of different cultures into practice.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 異文化交流の体験的理解についての導入
2. 19世紀(1): 共産主義のモノポリー／モノガミー批判
3. 19世紀(2): オナイダ・コミュニティの複合結婚
4. 19世紀(3): モルモン教とポリガミー
5. 世紀転換期: ポストン・マリッジ、姦通、自由恋愛
6. 20世紀前半: 無意識の解放と革命としての芸術
7. 小テスト
8. 20世紀後半(1): キンゼー報告の衝撃
9. 20世紀後半(2): ヒッピー文化の台頭
10. 世紀転換期: 「ポリアモリー」の誕生と浸透
11. ポリアモリーと日本(1): 岡本かの子の水脈
12. ポリアモリーと日本(2): 流行歌の詩学
13. 今期の授業内容および異文化交流の体験的理解についての総括
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リアクション・ペーパーは、講義内容の発展的復習と位置づけ、授業時間外に締め切りを設定する。また、国際交流ラウンジやSNS・インターネットサイトなどを通じて文化の多様性と交流の意義を体験的に理解する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小テスト(20%) / 最終テスト(Final Test)(40%) / リアクションペーパー(40%)

テキスト (Textbooks)

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 (Readings)

1. 深海菊絵、2015、『ポリアモリー——複数の愛を生きる』、平凡社新書 (ISBN:4582857779)

その他の参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

本授業のプラットフォームには、Blackboard を使用する。

注意事項 (Notice)